妙の光

通刊64号　復刊43号

2003年9月6日（季刊）

角田山妙光寺 発行

新潟県西蒲原郡巻町

角田浜 〒953-0011

TEL 0256—77—2025

『四大菩薩像開眼法要』ご案内特集号

木曾の自然林から切り出された樹齢数百年のヒノキを、二十年、三十年と自然乾燥させ、なかでも特にその素性の良い木から仏師の手により仏像が生まれてくる。昔から〝一刀三礼〟と言い表されるその作業は、まさに神々しいという言葉がふさわしい。

正確には菩薩像は仏像ではない。菩薩とは成仏して仏になる一歩手前にあって、仏になるために、悩み苦しむ人々を救う修行を積んでいる人をいう。観音様（正確には観世音菩薩）もお地蔵様（地蔵菩薩）も皆菩薩だ。

『法華経』では上行、無辺行、浄行、安立行の四人の菩薩を四大菩薩と名付け、お釈迦様の教えを直に受け、人心荒廃の世界にその教えを伝えることを託された菩薩と書かれている。日蓮聖人はなかでも上行菩薩にご自身を重ねあわせて、法華経を広めることに邁進された。

この妙光寺新本堂の四菩薩像がいよいよ完成し、この秋にお迎えして開眼法要が営まれる。

『四大菩薩像開眼法要』へのご案内

皆様のご協力で一昨年落成した新本堂に新しい仏像をと発願して、中尊のお釈迦様像だけが安置されてきました。このたび脇侍（わきじ）の「四大菩薩像」が完成し、開眼法要を営むことになりました。妙光寺のご本尊として、この先幾百年にわたり人々にお参りされていく仏様の、最初の記念すべきときです。ご家族お揃いで、ぜひともご参列いただきますようご案内申し上げます。

寺は葬式仏教と揶揄（やゆ）され、葬式や法事といった死んだ人のためだけの場になっているきらいがありました。昨今は葬式、法事ですら寺は不要という風潮がおこりつつあります。本当に宗教は不要かといえば、決してそんなことはなく、生きていく上での様々な悩み苦しむ人が益々増えて、自ら命を断つ人のとても多い、悲しい時代です。

こうした問題に寺が応えて来なかった歴史を反省し、二十一世紀の始まりに完成した新本堂は、古いことだけに価値をおくのでなく、分かりやすく親しみやすい新しいご本尊を安置し、生きていくうえでの救いとなる、活気ある開かれた寺にしていきたいと願いました。

幸いにして皆さんのご賛同をいただき、完成した新本堂は幅広い方々に好評をいただい

ております。中尊の「釈迦牟尼仏像（お釈迦様）」も大仏師石川真水師の労作として、本堂工事にあわせてお迎えすることができました。脇侍となる「四大菩薩像」は当初、経費の都合上中国での製作を検討していたのですが、石川仏師から「時間さえもらえれば費用は特別に配慮するので、全て私に彫らせてもらえないか」とのお話をいただきました。

その経費が問題でしたが、十年二十年かかっても皆さんのご協力を仰いで、後世に残るいい「四大菩薩像」にしたいとの全役員一致の考えで、石川仏師にお願いすることにしました。このお話を皆さんお伝えしたところ、はからずも短期間に全額を上回る寄付のお申し出が寄せられ、製作期間二年半を経てこのたびの開眼法要に至りました。仏天のご加護と皆様の熱い思いに、心から感謝申し上げる次第です。

この法要では、こうした経緯を大切にして、皆様の心に残る荘厳で感動的なものにしたいと準備してきました。夜の薄明りの堂内に、聲明（しょうみょう・お経に節をつけて男声コーラスのように唱えます）と、土笛、そして迫力ある祈祷の読経が響くさまは、他でもなかなか出会う機会のない法要です。特に聲明は最近、国立劇場や東京青山のホールで演じられることがあり、宗教音楽として若い女性が多く聞きに集まります。

夕方から夜にかかるため、交通手段の確保に難儀されるかと思いますが、ご家族お揃いで、あるいは近所のお友達でもけっこうです。幅広くどなたでも、お誘い合わせお出かけ下さることをお願いします。

『四大菩薩像開眼法要』並びに『御会式』詳細ご案内

期日　平成十五年十月四日（土）

時間　受付は午後二時半から五時まで開いています。日程表をご覧のうえ、ご都合に合せ早めにお出かけください。

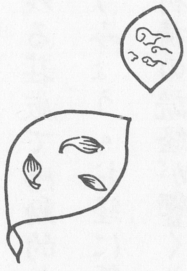
会費　法要―お志（三千円から）として、家族ごとに受付で申し受けます。この際記念品をお渡しします。

清宴―お一人　三千円。

会費は当日受付で、お志と一緒にお願いします。

（受付の混雑を回避するため、世話人に申し込みされた清宴会費のみ、事前に頂戴します）

申込　準備の都合上、法要、清宴ともに世話人のいる地区は世話人に。その他の地区と安穏会員は、同封の葉書かＦＡＸで直接妙光寺にお申し込みくだ



さい。

法要だけ出席の場合、当日になっての増減も多少は可能です。ご家族、ご友人誘い合わせて、多数のお出かけお待ちします。

締切り 九月二十九日（月）

バス 清宴後にのみ無料バスを用意します。ご利用代表者名と人数を予約受付します。

妙光寺発八時四十分→「越後曽根駅」行。

越後曽根駅で新潟方面、巻方面に接続します。

※時節がら夕方からは冷え込みが予想されます。一部は屋外席になりますので、暖かい服装でお出かけください。

※内野駅からタクシーご利用の方は、栄タクシーの一割引券をお送りします。申込葉書にお書き添えください。

日程

十月四日（土）

開眼法要とともに、日蓮聖人第七二二遠忌お会式法要を営みます。ご都合のつく方は午後三時までにお越しください。

（午後一時三〇分～二時四五分　授戒者研修）

〃三時～三時四〇分

日蓮聖人第七二二遠忌御会式法要

（授戒会）

〃四時一〇分～四時五〇分

記念法話

「私が変われば世界が変わる」

大分市妙瑞寺　菊池泰啓　師

〃五時二〇分～六時四五分

四大菩薩像開眼大法要

〃七時～八時三〇分

清　宴

表白文

今 時至れり
釈迦牟尼佛 生死を示して後 二千五百年
ここに像立する四軀の大菩薩像は
その名を上行菩薩 無辺行菩薩 浄行菩薩 安立行菩薩と名付く
その身より金色の光を放ち 三十二の好相を具え
世間の汚れに染まらざること 蓮華の濁水に華開くがごとし

この四大菩薩 国土震い裂けて 地中より湧き出でたり
太古より大地の下にあって 衆生を支えり
観音 弥勒等の菩薩は他の惑星より飛来せしが
四大菩薩は 青き星地球に生まれし我らが人類なり

地涌の菩薩 釈迦無尼佛の脇に存することは
我らが釈迦無尼佛が 阿弥陀仏 大日如来等を統一し
十万宇宙唯一の仏 久遠の仏なることを証明せしものなり

この高貴の大菩薩 久遠の元初より
常に釈迦無尼佛の教化を補佐し 二千年の後
鎌倉の世 仏法の真実を明かさんがため
日蓮聖人と生まれたり

式次第

半鐘（一般着座）
梵鐘（堂内一般席点火）
笛（自然な土笛の音で道場を清め、そこに僧侶が入場します）
聲明（節をつけたお経で、仏様をお迎えする世界を現わします）
勧請（仏様をこの場にお迎えする文を、導師がお唱えします）
開経偈（始まりのお経をお唱えます）
自我偈（『法華経』の中心となる経文『如来寿量品第十六』の後半の一説）
陀羅尼品・修法（四大菩薩像に魂をお入れして、仏様の徳を備え、私達をお守りいただく祈りのお経と作法を、修法導師が行ないます）

国土は戦いに明け暮れ　佛法は競い乱れる中
日蓮聖人ひとり仏説に従い　身命をもって修行せん
天　地　人　これを証かさんがため　大地は震え
彗星は光芒を引き　蒙古は襲う
これ経文に　釈迦無尼佛予記せるところなり
不思議なるかな　経文と日蓮聖人符合して
法華経の真実　釈迦無尼佛の宇宙唯一仏は証されたり

四大菩薩の仏法を広めることは　風の空中を行くがごとく
仏法を窮めたることは　日月の光明の黒き闇を除くがごとし
衆人の心闇のを照らさん

この四大菩薩　我らを守護せること
あたかも釈迦無尼佛に仕えるがごとし
我らまた　釈迦無尼佛の赤子なるがゆえに

今ここに　新たな四大菩薩を造立せるは
北越の大地　角田山麓に　仏法の真実を顕現し
法華経修行の人々を守護せんがためなり

嗚々　上行菩薩　無辺行菩薩　浄行菩薩　安立行菩薩
ここにその尊高　優美の相貌を現わし
人々をして　仏法流通の菩薩たらしめよ

維時平成十五年十月四日
角田山第五十三世　顕妙院日光　敬白

聲明・撒華（「願わくは私は道場にあって、香や華を、佛にお供えしようと思います」と合唱し、華びらを散らします）

表白文（お釈迦様に対して新たに四大菩薩像をお迎えし、魂をお入れしたことをご報告します）

笛（心安らぐ仏様の世界を音楽で表わします）

唱題（『法華経』の根幹となる祈りの言葉を皆さんでお唱えします）

回向（この法要の趣旨を導師が代表して、仏様にお伝えします）

四誓（四つにまとめた、菩薩行の誓いの言葉をお唱えします）

唱題三遍（法要の最後に心を込めてお題目を皆さんでお唱えします）

笛（式修、聲明師　退場）

住職挨拶

仏師と出座の方々ご紹介

仏師

石川眞水 師 五五歳

大阪府生れ。関西大学在学中、旧ソ連、欧州、中近東、アジア諸国を歴訪、卒業後独学で仏像彫刻を始める。

七八年京都七条佛所、定朝三十八代大佛師橋本忠円師に師事。京都市立芸術大学に聴講。八八年独立して石川彫刻工房を設立。九〇年京都から現在の滋賀県甲南町に移転して現在にいたる。

工房移転後の主な製作

御本尊十一面観音像　龍谷寺（曹洞宗）
神猿像　猿田彦神社（京　都）
日蓮聖人像　本山要法寺（日蓮宗）

主な修復

十六羅漢像（全十六躯）東海寺（臨済宗）
御本尊飯綱大権現像・大日如来像・

修法導師（しゅほうどうし）

祈祷根本道場大荒行堂
「遠壽院」第三十五世伝師

戸田善育 師 五十歳

千葉県市川市にあって、毎年寒百日の間、全国から参集する荒行修行僧の行法修行の指導を担当。

また二〇〇〇年からはドイツのインターナショナルスクールで、唱題修行の指導と荒行についての講義を行なっている。

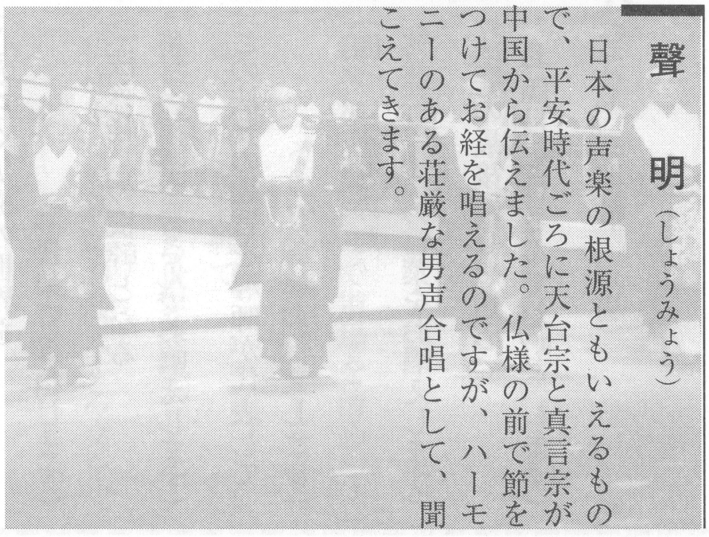
土笛演奏

中野　亘さん 五十歳

新潟市生まれ。関西大学哲学科卒。京焼きの八代目高橋道八に師事。南米

聲明（しょうみょう）

日本の声楽の根源ともいえるもので、平安時代ごろに天台宗と真言宗が中国から伝えました。仏様の前で節をつけてお経を唱えるのですが、ハーモニーのある荘厳な男声合唱として、聞こえてきます。



『七聲會（しちせいかい）』

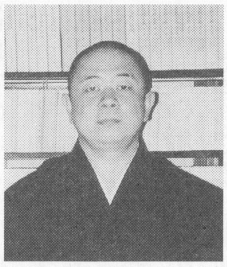
千葉県泉養寺住職海老原廣伸師を代表として、平成八年に発足した天台聲明の会。当日は会員十八名のなかから、海老原代表を含め四名が出座。

海老原師は比叡山坊城道澄師、人間国宝中山玄雄師に師事し、一九六八年から七〇年まで比叡山において聲明を研鑽。

不動妙王像他二十一躯　高尾山薬王院
釈迦牟尼佛像　大本山誕生寺（日蓮宗）
その他多数

記念法話

大分県妙瑞寺住職
菊池泰啓 師　四一歳



寺のひとり息子として育ち、決められた将来が嫌で家出を試みたが失敗。大学で仏教を学びつつ、信頼にたるある僧侶に出会ったことを機に各地を歩く。東京広島間を三カ月かけて歩いた平和行脚、インド五〇〇キロを歩いた巡礼行脚、ネパールでの仏跡復興支援、米国の先住民族支援等々様々な現場に触れてきた。

現在大分安穏廟を開設して、血縁を超えた支え合いが実現できるこれからの時代の寺づくりに、市民運動の中心になりながら活動している。

ペルーでプレ・インカの土器を研究。八五年工房を滋賀県八日市市に設立以来、毎年各地で個展を開催。朝日陶芸展、朝日現代クラフト展入選。

弥生時代の土笛と出会い、作陶の傍ら自作の土笛等で演奏活動を続ける。九八年熊野古道。九九年奈良天河弁財天、京都法然院で小島千絵子（鼓童）と共演。〇〇年パリのユネスコ本部で演奏。〇一年和太鼓の藤慶哉と共演。〇二年妙光寺で新井弘順と共演。〇三年七、八月法然院でソプラノサックス奏者の山本公成とのコラボレーションは、新たな音宇宙を切り開くセッションとなった。

八三年フランスの現代音楽作曲家J・Cエロアによる初の創作聲明の誕生の際、天台聲明、真言聲明それぞれの担い手であった四人の僧侶が宗派を超えて『聲明四人の会』を結成。海老原師はその一人として参加以来、今日にいたるまで古典聲明の普及のみならず、現代音楽の作曲家と共同して実験的新作聲明を世に送り出している。

他宗との合同で国立劇場、青山スパイラルホール等国内各地はもとより、ヨーロッパはじめ海外公演を毎年のように行ない高い評価を得ている。昨年十月新潟市民芸術文化会館大ホールでの公演も好評を博した。

妙光寺小川住職と『聲明四人の会』の新井弘順師（真言宗）は長い交際で、新井師の「ぜひ妙光寺の新本堂で演りたい」との話からこの場が生まれた。しかし新井師は国立劇場での公演が決まっていて、当日は不参。他に左記の方々が出座される。

佐野広隆（東京・徳正寺住職）
末廣正榮（〃・地蔵寺〃）
平田眞紹（〃・浅草寺本龍院副住職）

寺の動き

三重塔修復　他

年会費納入のお礼

年会費納入のご協力ありがとうございました。今年から郵便振り替え用紙にお名前を記入してお送りしました。初めてのことで一部間違い等ありましたが、概ね好評です。この振り替え用紙で集計しますので、今後は直接持参される方、世話人が集めに伺う方も必ず、この用紙をお出し願います。

お忘れでまだ未納の方は、宜しくお願いします。

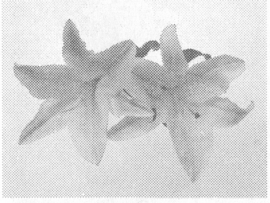
涼しい中でのお盆法要

八月一日の墓参りとお盆の施餓鬼法要が、今年は遅れた梅雨明けの影響か、涼しい中で営まれました。平日でしたがお参りの人は例年並み。例年暑いと朝方に集中するのですが、全般に出足が遅かったようです。

翌日にはお供えの花等を片づけましたが、前々からの「お供えお菓子と缶類を放置しないで」というお願いが徹底されたようで、とても少なく大変助かりました。ことに当日朝から多くのカラスがお菓子類を狙って、上空に待機していたものですから、皆さん事情を理解されたようです。ご協力ありがとうございました。

また今年はこれまでになく、卒塔婆供養の申し込みが多数ありました。安穏会員の方が増えたせいです。

ただ本堂の法要にお参りされる方が年を追うごとに少なくなっています。当日お参りされた方にアンケートをいただき、皆さんがもっとお参りしやすくなる策を考えていきます。



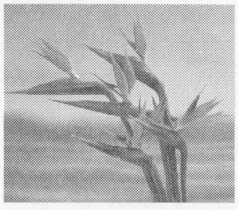
三重塔の修復工事着工

春先に大きく壊れた三重塔ですが、東京の小黒トメさんから修復工事の費用を奉納くださる旨、お申し出をいただきました。八月三十一日に臨時役員会議を開き、ありがたくお受けして二社に見積りの結果、加賀田組に発注しました。

九月早々から宮大工が解体して仏具店の作業場に運び、古い建物専門の研究者が材料一点づつを図面にします。これが完了したところで、専門家の意見を参考に、最終的な仕上げ方法を役員会議で決定し、修復作業にかかります。完成には一年かかります。

「どこに出しても恥ずかしくない、貴重で立派な塔で、修復されれば県の文化財に指定されるでしょう」とは、専門家のお話しです。

フェスティバル盛大に



今年もフェスティバル安穏が八月二十三日、多数の参加をいただいて盛大に行なわれました。申し込み者同士の生前交流と、埋葬者への合同供養を目的に開かれて十四年目になります。

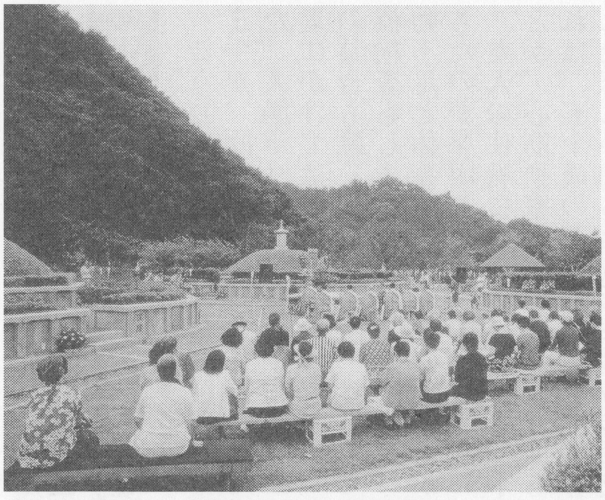
午後一時半からの基調講演はロッキード事件当時の検事正で、現在公証人連合会の理事をお勤めの清水勇男さんが、「死の準備三点セット」と題して話されました。家族や血縁に頼れない時代、自身の老後、尊厳死、死後のために、遺言等きちんと法律で守りを固めておくべき。子供がないからといって養子をとろうなどと考える時代では決してありません。と優しくはっきりと分かりやすく語られて、大好評でした。

パネルトークでは会員の小幡洋子さんが、遺言を書いた自身の体験を、また新潟公証人役場の和田英一さんが、まだまだ少ない新潟での遺言の背景を、小川住職が今後の妙光寺の方針をそれぞれ語りました。会場からの質問も続き、時間を超えての熱心で有益な集まりでした。

安穏法会は、涼しい風が吹くすっかり整備された安穏廟でしめやかに執り行なわれました。読経と篠笛が響き、散華の花ビラが舞う光景に、心静かに故人の冥福が祈られました。昨年を大幅に越す数の二五五本の献灯大ロウソクが灯され、夕暮れに見事でした。お礼申し上げます。

夕刻からの交流パーティーは、一六〇人が院庭で丸テーブルを囲んでそれぞれに話が弾みました。後半地元の太鼓集団『鼓無双』が、「祭り喋し」など迫力ある演奏を披露すると、盛り上がりは最高潮。その後の住職も加わった檀徒有志による「安穏甚句」。この笛と太鼓がかすんでしまった…かのようでした。でも踊りの輪がよかったですね。来年は十五周年を迎えます。

「都合で出られないが講演内容を知りたい」という要望があり、当日配布の資料を不参加の方のみ、同封しました。



夕暮れの合同法要

行事案内

九月二十三日（祭日）

秋季お彼岸法要

午前十時半　「安穏廟」合同法要
　　十一時　彼岸会中日法要
　　昼十二時　おとき
午後一時　住職説教

夏の行事で「多忙な住職とゆっくり話ができない」「昔ながらの手作りのお寺のおときが懐かしい」という声がありました。

春秋のお彼岸には住職がお説教し、ご用の方のお話をお聞きしています。また地区別で当番にお願いして、おときの料理も手作りで続けています。ぜひお出かけください。「何を用意して行ったらいいのかわからない」なんていう方も、遠慮なく電話でお聞きください。

寺庭から

夏去秋来

夏を惜しむかのようにセミの鳴き声が響いています。天候不順な夏でしたが、天気には恵まれたこの夏の妙光寺でした。

みなさまには、野菜や果物、お酒やお菓子など沢山のお心使いをいただき、様々な行事をいっそう充実して終ることが出来たことをお礼申し上げます。

さて神社仏閣巡りが大好きな四女（高二）が、夏の終わりに私の母と鎌倉に行って来ました。鎌倉が好きで、今回は臨済宗円応寺の閻魔大王座像をお参りしたことが印象に残ったと言って、写真を見せてくれました。

仏師「運慶」作で、一度死んだ運慶が閻魔様に「自分の姿を彫像し、その像を見た人々が悪いことをしないで、良いことに生きていくならば生き返らせてやろう」と言われ、生き返った運慶がその喜びのうちに彫刻したものだそうです。おもしろいですね。

さていよいよ十月は四菩薩様を妙光寺にお迎えします。しめやかにそして喜びにあふれた法要になりますように。そして何百年もの末永い信仰の第一歩に参加する機会だと思います。お出かけ下さい。

（小川なぎさ）

ときとあがき

こうして書くとまたご心配おかけしますが、昨秋からずっと体調不良でした。大腸ポリープ、痔の手術、春から夏にかけてはずっと微熱が取れず、耳の具合も悪く耳鼻科通院。CTやら血液検査もしましたが、全て正常値。運動不足と休養不足で、体の免疫力が落ちたのが原因と最終診断されました。

友人の住職には声帯ポリープで手術とか、心筋梗塞から生還という話もあれば、五十歳の若さで脳腫瘍で他界された悲しい知らせも。この方の通夜には、駅からお寺まで、慕う人の長蛇の列ができました。世間一般のお寺は知りませんが、私の周囲の住職は皆とても一所懸命です。

いえいえ住職だけでなく、頑張っている若い檀徒の方もいて嬉しくなったり、逆に四十代半ばで逝かれた男性のつらい葬式もありました。まさに悲喜こもごもの毎日です。

秋を迎え今は快調です。我が家で唯一の同性、犬のもん太と仲良く散歩に精を出してます。どうぞご心配なく。

小川英爾